

包括的連携協定の詳細

東海農政局三重県拠点（以下「三重県拠点」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校（以下「鳥羽商船高等専門学校」という。）との間で締結された包括的連携協力に関する協定（以下「包括的連携協定」という。）の詳細は、以下のとおりです。

1 協定締結に至る経緯と目的

鳥羽商船高等専門学校は「Society5.0 型未来技術人財」育成事業（GEAR5.0）（注）の農林水産分野における中核拠点校として位置付けられており、AI やロボット技術を活用した技術開発に強みを有しています。一方、三重県拠点は農林水産業の現状や直面する課題、解決に向けた施策等の情報とともに、地域の農業者のネットワークや活動のノウハウを持っています。これまで両者は情報交換や勉強会等を通じて交流を図ってきたところですが、この交流や協力関係を深化させ、双方の持つ特長を更に発揮することを目的とし、包括的連携協定を締結しました。

協定締結を通じて、三重県拠点は、食料・農業・農村基本法の改正など新しい農政が動き出し、農業の構造転換の実現に向けた施策を集中的に実行する中で、自らの知見を生かしながら、課題やテーマだけでなく、現場のニーズも鳥羽商船高等専門学校に積極的に提供し、技術開発をサポートします。また、鳥羽商船高等専門学校が開発した技術の実証や普及にもこれまで培ったネットワークを活用して取り組むこととしています。

鳥羽商船高等専門学校は、三重県拠点からの農林水産業の現状・課題等の情報提供により、農林水産業の新たな分野での教育・研究分野を切り開き、三重県や地元地域が直面する課題を解決するツールを開発するといった地域社会への貢献を目指しています。

2 今後の取り組み

今回の包括的連携協定の締結により、三重県内の農林水産業の抱えるさまざまな課題の解決に寄与するために、以下の取り組みを行います。

- ① 鳥羽商船高等専門学校は、スマート農業技術を活用した地域課題を解決（AI を用いた選果機や防除機による農業の労働力不足の解消、野生鳥獣による農作物被害対策のための研究を開始）するために低コストスマート農業技術の開発と実用化の促進。
- ② 三重県拠点は、拠点の持つネットワークを通じて鳥羽商船高等専門学校が開発したスマート農機の実証に向けたマッチングを行うことによる普及促進のサポートおよび出前授業やフィールドワーク等を通じて、若い世代の農林水産業やスマート農業技術に対する関心を高めることにより、スマート農業技術者の育成に協力。

これら地域の課題解決に向けた包括的連携協定の締結により、三重県内の農林水産業への就業者の増加とそれに伴う地域の活性化等、今後の三重県内の農林水産業の持続的発展が期待されることです。

（注）「Society5.0 型未来技術人財」育成事業（GEAR5.0）とは、地域密着型・課題解決型・社会実装型などといった高等専門学校の従来型の特長を生かしつつ、産学官の連携体制という全国規模の面（基盤、ネットワーク）をつくることで、全国にある 51 校の国立高等専門学校の資源を駆使した新たな人材育成モデルの構築を図る、教育研究プロジェクト。

1 つの分野だけでは解決できない社会の大きな課題に対して、さまざまな専門的知見を生かした研究活動を行い、成果を出すという実践的な取り組みとなっている。